**支援を要する幼児等の支援**

施設名（こども療育センター　）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 活動名 | 相談支援ファイルの活用の流れ | 主担当 | 菊池　美奈子 |
| 記録者 | 菊池　美奈子 |
| 対象者 | 保護者（通所児） | | |
| 日　時 | 随　時 | | |
| 内　容 | 本人のプロフィールや支援の内容、相談の記録等を一冊にまとめ、支援が適切につながり保護者と支援者が連携してよりよい支援・一貫した支援に取り組んでいくことができるようにすることを目的としている相談支援ファイルの内容について、保護者に説明するとともに、作成を支援する。 | | |
| ねらい | 相談支援ファイルを活用して支援や理解の輪を広げる。 | | |

●実施の記録

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時　期 | 内　　　　　　容 | |
| 随　時  随　時  ３月頃 | ・相談支援ファイルの説明  ・保護者から、相談支援ファイルを持ってもよいとの申し出があったときの対応  園や学校への引き継ぎ | 1. ファイルの説明は、次のように保護者交流会で全体に対してのほか、随時個別に行っている。   ・保護者交流会では、相談支援ファイルの目的やファイルを持つときの考え方、ファイルの内容、記入の仕方について具体的に説明し、実際にファイルを見てもらっている。  ・診断名があり、医療やリハビリなどの内容を関係機関に引き継ぐことが必要と思われる子については、保護者に個別に説明し、ファイルを持つよう勧めている。また、入園や入学を控えている保護者にも個別に勧めている。   1. ファイルを持つとき重く受け止めないようにと、母子手帳の延長ととらえ支援が必要なときは活用し、必要がなくなったら活用をやめるというように考えてほしいことを伝えると、保護者は納得して持つことができる。 2. 保護者と一緒にファイルを見ながら、各様式の説明をする。 3. 「保護者の同意欄」を記入してもらう。 4. 「プロフィール・発達の様子・発達の経過」について、母子手帳を見ながら保護者自身で記入するか、センター職員と一緒に記入するかを確認する。 5. 幼稚園等入園前用の「様式1-1」について、記入例を見ながら具体的な書き方の説明をする。   ・家庭での様子は書きやすいが支援内容をどのように書くのかイメージがつかないときは、保護者に聞き取りをしてこのように書いてみてはと例示する。  ・保護者の記入が難しいときは、聞き取りや療育の記録から抜粋して職員が記入し、保護者に確認してもらう。  ・身の回りのこと・遊び・運動などは、家庭での様子を中心に記入するようにしている。センターでの様子は、半年ごとに児童発達支援状況書にまとめているので、これを渡してファイリングする。児童発達支援計画書（個別の支援計画）も併せてファイリングする。  ・引き継ぎ先で読みやすいように、できるだけ簡潔に記入した方がよいことを助言している   1. 幼稚園等入園後用の「様式1-2」については、園の先生が中心になって記入するものであり、園での様子を中心に先生方がどのように支援しているかや、家庭での様子も伝えて書き加えてもらうとよいことを説明している（園によっては家庭での様子を保護者に記入してもらうところもあることを付け加えて説明）。センターの状況書や個別支援計画も、定期的に渡してファイリングする。 2. 「様式２　相談の記録」には、発達検査結果や運動・言葉の相談を受けた結果などをファイリングしたり、記入するよう説明している。 3. 「様式３　医療の記録」には、県立療育センターなど医療機関の受診状況を記入したり、診断書をもらっている場合はファイルしたりする。特に内服状況やアレルギーの状況についても記録をするよう説明している。 4. 「様式４　福祉サービスなどの記録」は、センターや相談支援事業所との契約状況や特別児童扶養手当の受給状況等を記録するよう説明している。   以上のように、保護者と一緒にどの機関とつながっているか、何をファイリングすればよいかを確認しながら記録の支援を行っている。   1. 入園する際には、ファイルや状況書により園に引き継いでいる。保護者の希望により保護者、園、センターの三者で引き継ぐ場合と、保護者、園の二者で引き継ぐ場合がある。また、入学する際にも、保護者の希望により保護者、園、学校の引き継ぎにセンターでも同席するようにしている。 |

●成果・評価・感想等

毎年保護者交流会にて支援ファイルの説明会を行っている。説明を聞いてからファイルを持つまでに時間がかかる場合があるが、就園を機会に子どもの様子を園に伝えるために持ち始める保護者が増えてきている。センターに通い始めの頃に説明すると、理解を得られやすい場合もある。

ファイルを活用して就学や入園前に三者面談（保護者、関係機関、センター）をすることで、子どもの特徴や支援の様子を伝えやすかった、園と連携しやすくなった、成長の記録として残せてよかったという保護者の感想がある一方で、記入する負担が大きかったという感想もあった。保護者の負担になりすぎないよう、今後も支援ファイルを持ち始めたときは、保護者と確認しながら記入について支援していく。

ファイルのみの引き継ぎではなく、関係者が顔を合わせて引き継ぎを行うことで、安心感や信頼関係を築くことができるので、今後も保護者の希望にあわせ支援していきたい。

■今後に対する意見・課題等

相談支援ファイルは、支援を確実に引き継いでいくことや、保護者や支援者が一貫した支援を行っていくためにも重要なツールであるので、普及に努めていくことが大切だと考えている。センターでは支援ファイルを所持する方が少しずつ増えてきている（Ｈ27.10月末現在77.4％）。今後も園や健康増進課等関係機関と協力しながら普及させていきたいと思う。